

## 感染症情報 1月11日～17日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1132例（堺市 67例）
②溶連菌感染症	334例（堺市 17例）
③RSウイルス感染症	179例（堺市 9例）
④おたふくかぜ	145例（堺市 9例）
⑤伝染性紅斑	122例（堺市 7例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 954例（堺市 55例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から17%減少し、第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がRSウイルス感染症となっている。昨春流行した伝染性紅斑が第5位に入っている。インフルエンザは96%増加し、定点当たり3.1と流行開始レベルと言われる1.0を上回った。全国的には定点当たり4.1で沖縄県が12.2、新潟県が11.8と注意報レベルの1.0を上回っており、1県を除いて前週より増加した。当院でも前週、今週共4例ずつ迅速検査で陽性となっており、流行は拡大するだろう。